

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

大幸薬品

4574 東証1部

[企業情報はこちら >>>](#)

2020年9月30日(水)

執筆：客員アナリスト

角田秀夫

FISCO Ltd. Analyst **Hideo Kakuta**



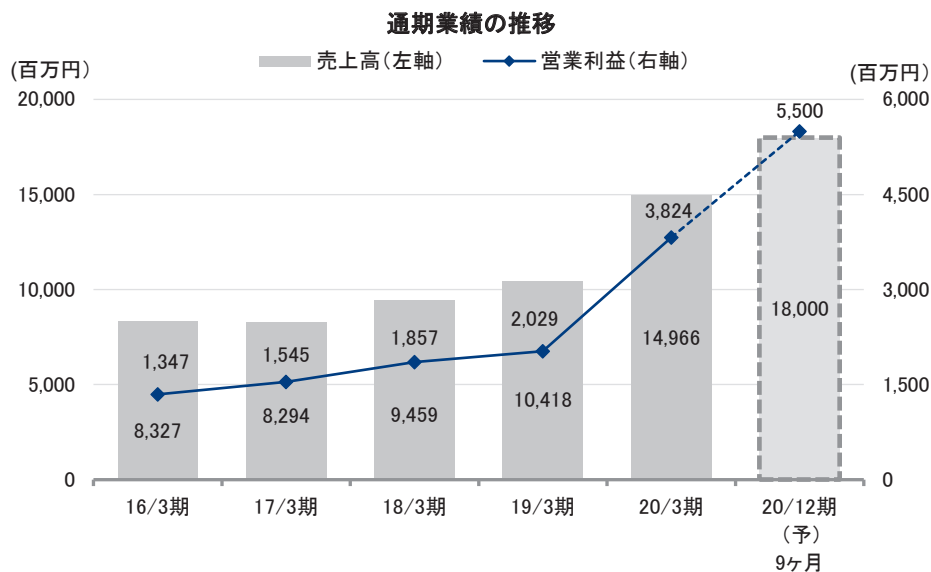
FISCO Ltd.

<http://www.fisco.co.jp>

業績動向

2020年12月期第1四半期は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う衛生意識の高まりから「クレベリン」需要が継続し記録的好業績

大幸薬品<4574>は、「正露丸」「セイロガン糖衣A」を中心とする医薬品事業と、ウイルス除去・除菌・消臭製品「クレベリン」シリーズを中心とした感染管理事業を展開している。



出所：決算短信よりフィスコ作成

2020年12月期第1四半期は、売上高が5,773百万円（前年同期比244.4%増）、営業利益が2,757百万円（同1,206.6%増）、経常利益が2,702百万円（同1,547.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益が1,870百万円（同1,255.1%増）と、売上高・各利益ともに前年同期を大幅に上回り、記録的な好業績となった。

売上高に関しては、医薬品事業で消費者の外出自粛などの影響を受けたものの、新型コロナウイルス感染症拡大（以下、コロナ禍）に伴う衛生意識の高まりが追い風となり感染管理事業が大幅に伸び、全社売上高をけん引した。国内医薬品事業の売上高は835百万円（前年同期比18.9%減）となり、コロナ禍に伴う消費者の外出自粛、インバウンド需要の減少の影響を大きく受けた。海外医薬品事業の売上高は178百万円（同61.8%減）。各国ともに消費者の外出自粛等の影響を受け低調に推移した。感染管理事業の売上高は、4,757百万円（同2,602.8%増）と飛躍的な増加となった。例年、第1四半期（4月～6月）はインフルエンザの流行がほとんどないため閑散期となるが、今第1四半期は感染症流行により消費者の衛生意識が高い状態が継続したことが主要因である。商品別には、主力である「クレベリン 置き型」を中心に「クレベリン スティック」なども好調だった。2019年秋から新規投入した日常除菌の商品群「クレベ & アンド」もハンドスプレーやハンドジェルなどの需要が高く、売上高661百万円と好調である。一般用製品の好調に連動して、業務用製品及び海外向けの感染管理製品も好調に推移した。感染管理商品は、工場をフル稼働しても需要に追い付かない状態が続いている。

大幸薬品 | 2020年9月30日(水)
4574 東証1部 | <https://www.seirogan.co.jp/ir/>

業績動向

売上総利益は増収の影響により大幅に増加し、調整後数値（海外子会社の4月～6月の数値を加算）による売上総利益率は前年同期比3.5ポイント上昇した。販管費に関しては、支払手数料、運送費をはじめとして販管費が増加したが、増収効果等により販管費率は同31.7ポイント低下した。結果として、営業利益は前年同期比1,206.6%増と大幅な増益となった。セグメント利益では医薬品事業が減益（同18.8%減）、感染管理事業は大幅増益（前年同期は90百万円の損失）である。

2020年12月期第1四半期 連結サマリー

(単位：百万円)

	20/3期1Q			20/12期1Q			変化要因
	金額	売上比	金額 (調整後)	金額	売上比	前年同期比	
売上高	1,416	100.0%	1,676	5,773	100.0%	244.4%	国内医薬品事業は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う消費者の外出自粛、インバウンド需要の減少により減収 海外医薬品事業は、各国ともに消費者の外出自粛等の影響を受け低調に推移 感染管理事業は、大幅増。感染症流行に起因する消費者の衛生意識が継続。「クレベリン置き型」を中心にスティックや「クレベ&アンド」も好調
国内医薬品事業	1,030	72.7%	1,030	835	14.5%	-18.9%	
海外医薬品事業	208	14.7%	466	178	3.1%	-61.8%	
感染管理事業	174	12.3%	174	4,757	82.4%	2,626.9%	
返品調整引当金計上後 売上総利益	1,024	72.3%	1,114	4,039	70.0%	262.5%	感染管理事業の売上高大幅増加に伴う利益率改善。売上高総利益率は前年同期の開示数値との比較では2.3ポイント低下となったが、調整後数値では3.5ポイント上昇
販管費	843	59.6%	902	1,281	22.2%	42.0%	支払手数料、運送費をはじめとして販管費が増加するも、増収効果等により販管費率は前年同期の調整後数値との比較で31.7ポイント低下
営業利益	180	12.8%	211	2,757	47.8%	1,206.6%	医薬品事業は減収の影響で営業減益。感染管理事業は記録的な大幅増益
経常利益	127	9.0%	164	2,702	46.8%	1,547.6%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	103	7.3%	138	1,870	32.4%	1,255.1%	

注：調整後金額は、20/3期1Qは、国内事業は2019年4月～6月、海外事業は2019年1月～6月の数値。前年同期比は調整後数値により算出。
出所：会社資料よりフィスコ作成

今後の見通し

2020年12月期予想は、売上高180億円、 営業利益55億円に上方修正

2020年12月期通期の業績予想は、3月から12月への決算期変更のため、9ヶ月の業績予想となる。売上高で18,000百万円、営業利益で5,500百万円、経常利益5,300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で3,800百万円と第1四半期の好業績により売上高・各利益ともに上方修正された。参考に、前期の9ヶ月間と比較すると、売上高で前期比78.3%増、営業利益で同71.7%増、経常利益で同72.8%増、親会社株主に帰属する当期純利益で同78.7%増と、過去最高だった2020年3月期からの大幅な増収増益を予想する。

医薬品事業の売上高予想（9ヶ月）は期初予想比27.8%減の3,500百万円と下方修正された。第1四半期の減速を踏まえ、国内・海外ともに消費者の外出自粛等の傾向が継続することを前提にしている。

今後の見通し

感染管理事業の売上高予想(9ヶ月)は期初予想比67.7%増の14,500百万円と大幅上方修正となった。第1四半期を終えた段階で通期売上高予想に対する進捗率で32.8%であり、このペースが残り半年続く水準が予想値である。同社では、期初から「クレベリン」製品の欠品や品薄状態が続いてきたため、2020年6月から約3倍の生産能力に増強を完了。同年12月には最新鋭の新工場(大阪府茨木市)を稼働させ、約10倍の生産能力を確保する計画だ。2020年12月期は、消費者の感染症予防意識が高まり、通期で需要が継続する可能性が高く、「クレベリン」供給力の整備が順調に進めば売上高予想を超える可能性も十分ある。さらに、2020年3月期から市場投入された日常除菌製品分野のブランド「クレベ & アンド」も、通年型の商品群として今期も伸びが期待できる。海外感染管理事業に関しては、インターネット通販企業のM&Aを行った台湾市場、拠点を新設した深圳を中心とした中国市場で伸びが期待できる。

2020年12月期の営業利益は、第1四半期を終えた段階で通期予想に対する進捗率で50%を超えている。期末に向けては、国内外の中期的なマーケティング施策等も計画されているため、販管費はある程度増加することが見込まれるものの、増収効果による売上総利益の向上で吸収することが予想される。

弊社としては、(1)過去数年間のマーケティングにより「クレベリン」のブランド認知が向上している点、(2)秋以降に新型コロナウイルス感染症とともにインフルエンザの流行も予想され、感染症予防意識は継続しそうな点、(3)「クレベリン」製品の生産能力拡大(6月に3倍、12月には10倍)する点、などから、感染管理事業が計画を上回る可能性が高いと考えている。

業績の推移

(単位:百万円)

	売上高	前期比	営業利益	前期比	経常利益	前期比	親会社株主に 帰属する 当期純利益*	前期比	EPS(円)	配当(円)
12/3期	6,683	44.7%	515	-	558	-	482	-	12.41	5.0
13/3期	7,443	11.4%	1,120	117.7%	1,211	116.8%	1,037	115.2%	27.10	5.0
14/3期	9,947	33.6%	2,590	131.1%	2,683	121.5%	1,747	68.4%	45.31	8.3
15/3期	8,978	-9.7%	2,559	-1.2%	2,776	3.5%	1,770	1.3%	46.31	8.3
16/3期	8,327	-7.3%	1,347	-47.3%	1,307	-52.9%	840	-52.6%	21.74	5.0
17/3期	8,294	-0.4%	1,545	14.7%	1,407	7.7%	1,049	24.9%	25.48	6.7
18/3期	9,459	14.0%	1,857	20.2%	1,567	11.4%	1,094	4.3%	25.79	8.3
19/3期	10,418	10.1%	2,029	9.3%	1,885	20.2%	1,415	29.3%	33.00	11.7
20/3期	14,966	43.6%	3,824	88.4%	3,633	92.7%	2,453	73.3%	57.57	16.7
20/12期(予)	18,000	-	5,500	-	5,300	-	3,800	-	-	17.0

※15/3期以前は「当期純利益」

注:2020年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っており、20/3期以前の配当は遡及計算後の数値

出所:決算短信よりフィスコ作成

■ トピックス

年内到新工場を稼働させ、「クレベリン 置き型」の生産能力を約 10 倍に増強

同社は、需要が拡大する「クレベリン 置き型」の生産能力を 2020 年 12 月までに前年同期比で約 10 倍にする計画である。2020 年秋以降は、新型コロナウイルス感染症の第二波、第三波、さらにはインフルエンザの流行の可能性があるなか、消費者の衛生管理意識が高まっており、「クレベリン」のさらなる需要拡大が予測される。一方で、2020 年 6 月に主力の京都工場の生産体制を見直し、前年同期比で約 3 倍の生産能力を実現したものの、品薄状況が一部で続いていた。新工場の立地は、大阪府茨木市。既存の物件を改装することにより早期の稼働開始を目指す。また、最新鋭の自動化設備を導入することにより、生産に伴う単位あたり人件費の低減も見込まれる。設備投資額は約 20 億円を計画。新工場が稼働すれば、現状の品薄状態を解消するとともに、業務用市場や海外市場への拡大にもはずみがつくことになる。

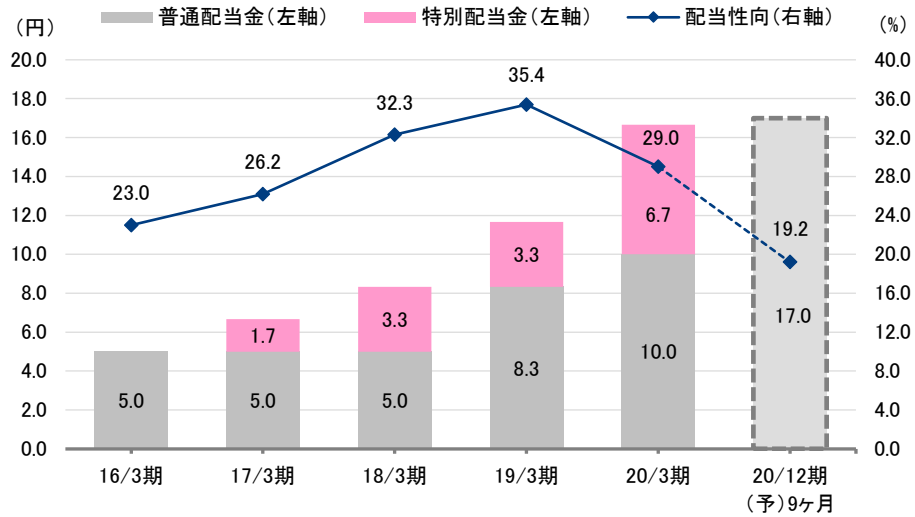
■ 株主還元

2020 年 12 月期の配当金予想は 17 円 (0.3 円増配)。 好調な業績予想から上方修正の可能性あり

同社は、堅実な成長性を維持する事業展開と安定的な経営体力維持のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を維持していくことを基本方針とし、連結業績も反映した配当政策としている。過去 4 年間 (2016 年 3 月期から 2020 年 3 月期) の配当の推移を見ると、配当金で 3.3 倍 (年 5.0 円から年 16.7 円)、配当性向で 6 ポイント上昇 (23.0% から 29.0%) と継続して株主還元を強化してきた。同社は、配当のほかにも、自社株買いを行っており、2020 年 3 月期の総還元性向は 50% を超える。好業績とともに配当や自社株買いなどの株主還元、株式分割等が市場で評価され、株式時価総額も大幅に成長した。2020 年 12 月期は、配当金で年 17.0 円と期初の予想金額を据え置いている。8 月 12 日に業績の上方修正が行われているため、弊社では期中に配当金の上方修正の可能性が高いと考えている。

株主還元

1株当たり配当金と配当性向



注：2020年4月1日付で1:3の割合で株式分割を行っており、2020年3月期以前の配当は遡及計算後の数値
出所：決算短信よりフィスコ作成

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けて作成されていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-11-9

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（情報配信部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp